

馬関港開港150周年

—さらに開かれた港へ—



▼空から見た下関港



1864(元治元)年8月、外国船が自由に関門海峡を通過することが出来るようになりました。この年を当時の下関港の名称であった「馬関港」の開港年と定め、今年で150周年を迎えました。

◆馬関港の開港

◆下関港の歴史

1864年8月8日、下関戦争で惨敗した長州藩は、講和使節の使者に高杉晋作を任じました。高杉は、イギリス・アメリカ・フランス・オランダの四国連合艦隊の旗艦での談判に臨みました。話し合いで、下関海峡の外国船の通航の自由の他、石炭・食物・水など外国船の必要品の売り渡し、下関砲台の撤去などの条件を受け入れることで講和が成立しました。

この講和成立により、外国船舶は自由に下関海峡を通航することができるようになり、馬関港(下関港)は事実上の開港を迎えました。

◆馬関港から下関港への変遷

江戸時代は北前船の寄港地として、細江から唐戸まで多くの倉庫や問屋が並び、随分にぎやかでした。当時、現在の下関警察署から赤間神宮までの瀬戸内海側一帯を馬関港と呼んでいました。

明治に入ると、地理的にアジア大陸に近いことから、上海定期航路の寄港地として1875年に開港指定を受け、国際港として歩み始めます。



岬之町付近(1864年) 馬関港が開港した年の関門海峡。沖には四国連合艦隊の軍艦が見える。向かいの山々は門司。

その後、鉄道の開通などによる交通の発展により、本州と九州を結ぶ交通の要衝地となっていく中、1889年に赤間関市として市制が施行され、港の名称も赤間関港となり、同年、国から最も重要な港湾の一つとして第1種港湾の指定を受けました。1902年に市の名称が下関市と改称されたことから、赤間関港も下関港と改称されました。

1905年には関釜連絡船が就航するなど、本州と九州を結ぶ国内交通の要衝としてだけでなく、韓国・中国(満州)へ渡るための重要な港湾としての役割も担うこととなりました。

◆下関港の今

国内最大の国際フェリー基地

下関港には、1970(昭和45)年に韓国・釜山との間に日本初の国際定期フェリー航路が就航しました。

現在では、韓国・釜山、中国・青島、中国・蘇州(太仓)へ国際定期フェリー航路が就航し、3航路週1便を擁する日本最大の国際フェリー基地として重要な役割を担っています。

沖合人工島「長州出島」

国際コンテナ貨物の増大や船舶の大型化に対応するため、関門海峡内



下関港国際ターミナル付近の様子



沖合人工島「長州出島」



長州出島から積み込まれる中古自動車

に比べて制約が少ない下関市新垢田沖の新港地区に沖合人工島「長州出島」の整備を進めています。

2014年4月には、自動車運搬船「ホーグ・トライデント号」が初めて入港しました。自動車運搬船は、今後定期的に寄港し、中古車の積込・運搬を行う予定です。

長州出島では、2014(平成26)年度中に浚渫土砂の搬入が完了し、地盤改良、インフラなどの整備により、早ければ2016(平成28)年度から国際物流ターミナル背後地の一部で貸付や売却が行われる予定です。

長州出島の整備により下関港の「より安く、より速く、より便利な港」としての特色がより強まることが期待されています。

「海峡のまち」下関の港へ行こう！

～馬関港開港150周年記念行事～

■詳細 港湾局振興課(☎231-1277)

これから実施される記念行事



- 客船「にっぽん丸」入港
回 9月27日(土) 函長州出島(一般の方は入場できません)
- 客船「ぱしふいっくびいなす」入港
回 10月21日(火) 函あるかぼーと
- 客船「飛鳥Ⅱ」入港
回 11月18日(火) 函あるかぼーと

ただいま実施中

- 客船・帆船スタンプラリー
馬関港開港150周年を記念して、客船や帆船などの歓迎イベント参加者を対象に、スタンプラリーを実施中
- あるかぼーと自由散策パスポート
今年11月までに寄港する客船の乗客を対象に配布

実施された記念行事

- 客船「カレドニアンスカイ」入港(4月28日)
- 客船「にっぽん丸」入港(6月19日)
- 海の日図画コンクール入賞作品展示(7月18日～30日)
- 帆船「日本丸・海王丸」同時寄港(7月31日～8月4日)
- 客船「にっぽん丸・ぱしふいっくびいなす」入港(8月13日～14日)
- 馬関港開港150周年記念クイズ大会(8月23日)



8月、下関港に寄港した帆船「日本丸」で行われたシッブスクール